

薬物療法学

《担当者名》教授 / 町田 拓自

【概要】

様々な疾患の治療において中心となるのが治療薬を用いる薬物療法である。適正な薬物療法を行うためには、病態についての基礎的知識、用いる治療薬についての薬理学知識、そして治療薬の実際の使い方を統合した薬物療法学の知識が重要である。「薬物療法学」は病態と治療についての統合的な知識習得を目指す科目である。医療人として医療現場への関わりがますます多くなるこれからの薬剤師には、専門性の高い薬物療法的知識の習得が常に求められる。

「薬物療法学I」では、末梢神経系の自律神経系、体性神経系に作用する薬物と体性神経系・筋の疾患と治療について、薬理学を中心に、機能形態学的、病態生理学的知識も交えて体系的な理解を図る。

【学修目標】

自律神経系の生理解剖学的特徴と、これに作用する薬物がどのような薬理作用を持ち、また、どのような疾患に適用されるかが説明できる。

局所麻酔薬の作用機序と、それぞれの薬物がどのような薬理的性質を持ち、どのように応用されるかが説明できる。

骨格筋における興奮収縮連関を、筋弛緩薬の作用機序と関連付けて説明できる。

末梢における神経・筋の疾患（病態生理、検査値、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	自律神経系作用薬 1 教科書（パートナー） 資料を配布する。	自律神経系の生理解剖学的特徴や、交感神経系および副交感神経系による拮抗的二重支配を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム C-7-2 1~2)	町田 拓自
2	自律神経系作用薬 2 教科書（パートナー） 資料を配布する。	アドレナリン作用薬を分類し、代表的な 作動薬および 作動薬の薬理作用と臨床応用、副作用を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-1 1~4)	町田 拓自
3	自律神経系作用薬 3 教科書（パートナー） 資料を配布する。	抗アドレナリン作用薬を分類し、代表的な 遮断薬および 遮断薬の薬理作用と臨床応用、副作用を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-1 1~4)	町田 拓自
4	自律神経系作用薬 4 教科書（パートナー） 資料を配布する。	コリン作用薬を分類し、代表的な直接的コリン作用薬および間接的コリン作用薬の薬理作用と臨床応用、副作用を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-1 1~4)	町田 拓自
5	自律神経系作用薬 5 教科書（パートナー） 資料を配布する。	抗コリン作用薬を分類し、その代表的な薬物の薬理作用と臨床応用、副作用を説明できる。 瞳孔の調節機構と、主な散瞳薬および縮瞳薬の作用機序を説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-1 1~4)	町田 拓自
6	自律神経系作用薬 6 神経・筋の疾患（末梢） 教科書（パートナー） 教科書（コンパス）：p103～107 資料を配布する。	神経節作用薬を分類し、代表的な節遮断薬の薬理作用と臨床応用を説明できる。 代表的な自律神経系作用薬の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。 進行性筋ジストロフィーの病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 گران・バレー症候群の病態（病態生理、症状等	町田 拓自

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 重症筋無力症の病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-1 1~4) D-2-4 1~4)</p>	
7	体性神経系作用薬教科書(パートナー)資料を配布する。	<p>局所麻酔薬の化学構造および適応方法、作用機序を説明できる。 代表的な局所麻酔薬を挙げ、その薬理作用、臨床応用、副作用を説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-3 1~3)</p>	町田 拓自
8	運動神経や骨格筋に作用する薬物教科書(パートナー)資料を配布する。	<p>活動電位発生の仕組みを説明できる。 神経筋接合部の形態と機能を説明できる。 興奮収縮連関を説明できる。 筋弛緩薬を分類し、その薬理作用、作用機序、臨床応用、副作用を説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム D-2-4 1~4)</p>	町田 拓自

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- ・ 所定の定期試験(筆記試験)(知識領域のテスト)の成績より可否の判定を行う(100%)。
- ・ 受講態度に問題がある場合、注意・通告の上試験成績より減点することがある(最大10点)
- ・ 定期試験終了後、試験問題の解説を行う。

【教科書】

「パートナー薬理学 改定第4版」石井邦雄、田中芳夫、坂本謙司 編(南江堂)
「コンパス薬物治療学 改訂第2版」原明義、小山進 編(南江堂)

【参考書】

「NEW薬理学 改定第7版」田中千賀子、加藤隆一、成宮周 編(南江堂)
「薬がみえるvol. 1 改定第2版」医療情報科学研究所編(Medic Media)

【備考】

定期試験対策として「定期試験対策テスト」を実施予定
(成績評価対象外)

【学修の準備】

- ・ 指定した教科書の関連する項目を事前に読んで予習しておくこと(40分)。
- ・ 予習時に不明な専門用語の意味等を事前に理解しておくこと(20分)。
- ・ 講義内容の学習課題へ到達できるよう毎回復習すること(50分)。

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【関連するモデル・コア・カリキュラム】

C-7 人体の構造と機能及びその調節
C-7-2 神経系
D-2 薬物治療につながる薬理・病態
D-2-1 自律神経系に作用する薬
D-2-3 麻酔薬
D-2-4 運動神経系や骨格筋に作用する薬

【実務経験】

(2026年度・薬学部)

町田 拓自 (薬剤師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での薬剤師としての実務経験に基づいて、臨床に即した薬物療法学の講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している